

学校経営方針

校長 堀田 典子

本校は、スローガン「つむぐ伝統 育む未来 個性輝く多摩辺中」の下、卒業生の思いや、これまで築き上げてきた伝統を受け継ぎ、生徒一人一人の個性と可能性が輝く教育を目指しています。

その中で私たちの使命は、教育目標の達成に向けた日々の取り組みを通して、生徒自らの興味・関心に基づき、主体的に学問の奥深さを探求し、スポーツの楽しさを体験し、多様な表現活動を通して喜びや感動を実感できるようにすることです。さらに、集団活動を通して多様な他者と協働する力や責任感を育み、心身ともに健やかで、変化の激しい社会をたくましく生き抜く、バランスのとれた人間形成を目指しています。そのために、私たち教職員は、生徒への深い愛情と教育への情熱をもち続け、チーム「多摩辺」として、保護者や地域の皆様の願いや期待に応えられるよう、信頼される学校づくりに努めてまいります。そして、学校に関わるすべての人が共に学び、共に成長できる教育共同体の実現を目指してまいります。

1 教育目標

- 進んで勉強しよう
- 思いやりのある人になろう
- 進んで心身をきたえよう

2 目指す学校像

- (1) 共に学び、共に育つ学校
- (2) 一人一人の可能性を引き出す学校
- (3) 将来の夢や目標の実現に向けて共に未来を創る学校

3 目指す生徒像

- (1) 問いをもち、仲間と共に学び合う生徒(知)
- (2) 自分も仲間も大切にし、温かい言葉と行動で周りを支える生徒(徳)
- (3) 健康を大切にし、心身を整えられる生徒(体)

4 目指す教師像

- (1) 未来を見据え、学びをつなぐ教師
- (2) 生徒の多様な個性と未来を支える教師
- (3) 対話と信頼を大切にできる教師

5 学校経営の基本的な考えと取り組み

- (1) 生徒一人一人の可能性を最大限に引き出し、未来に繋がる確かな学力の形成
 - ① 習熟度別・少人数授業の実施(数学・英語) ⇒ 生徒の理解に応じた指導、個別のニーズに対応した学び
 - ② 学習サポート体制の充実 ⇒ 質問教室・補習教室の開催、学習コンクールの企画による学びへの意欲と挑戦
 - ③ 家庭学習の定着支援 ⇒ 主体的な学びの促進
 - ④ 授業評価の実施(年2回) ⇒ 教師の授業力向上

(2) 生徒指導の組織的な対応による規範意識の育成

日々の生活の中で生徒の人間性を育み、社会性を高めることを生活指導の柱とする。

① 基本的生活習慣の確立

- ・時間を守る、挨拶をする、身だしなみを整えるなど、社会の一員としての基本的な生活習慣を身に付けさせる。
- ・自律的な行動を促し、規律ある学校生活を送る力を育てる。

② 人権尊重と多様性への理解

- ・他者を尊重し、互いの違いを認め合う心を育てる。
- ・いじめの未然防止と早期対応に努め、安心して過ごせる環境づくりを推進する。

③ 自己肯定感と多様性への理解

- ・自分の存在や行動に自信をもち、責任ある言動ができる態度を育てる。
- ・学級・学校・地域の一員としての役割を意識し、協働する力を育てる。

④ 地域との連携による指導の充実

- ・地域行事やボランティア活動への参加を通じて、社会との繋がりを深める。
- ・家庭・地域・関係機関と連携しながら、生活指導の一貫性と実効性を高める。

(3) 豊かな心とたくましい身体の育成

心身の健やかな成長を支える教育活動を通じて、生徒一人一人が自分らしく輝き、たくましく生きる力を育むことを目指す。

① 豊かな心の育成

- ・道徳教育や人権教育を通じて、思いやり・感謝・誠実さなど、人としての基本的な価値観を育てる。
- ・集団活動や学校行事を通じて、協働・責任・達成感を体験し、社会性と自己肯定感を高める。
- ・読書活動や表現活動を通じて、感性や情緒を豊かにし、自己と他者を深く理解する力を育てる。

② たくましい身体の育成

- ・体育授業や部活動を通じて、基礎的な運動能力と体力を高め、健康への意識を育てる。
- ・安全指導・防災訓練を通じて、危機対応力と自他の命を守る意識を育てる。
- ・保健指導・食育活動を通じて、生活習慣の改善や健康管理の力を育てる。

③ 心と体のバランスを重視した教育環境の整備

- ・生徒が安心して過ごせる環境づくりを進め、心と体のケアの両面から支援を行う。
- ・教職員が連携し、一人一人の状態に応じた柔軟な対応を行い、健やかな成長を支える。

(4) 夢を育て、進路を実現するキャリア教育の充実

全ての生徒が自らの個性や可能性に気付き、夢をもち、目標に向かって主体的に進路を切り拓いていくキャリア教育を目指す。

① 自己理解と自己肯定感の育成

- ・自分の興味・関心、得意なことや価値観を見つめ直す機会を通じて、自信をもって将来図を描けるように支援する。

② 社会や職業への理解を深める体験活動

- ・職場体験や地域の方々との交流、職業講話などを通じて、社会の仕組みや働くことの意味を学び、進路選択の視野を広げる。

③ 学びと進路の繋がりを意識した指導

- ・各教科や総合的な学習の時間において、学びが将来の進路や社会とどう関わるかを意識させ、学習意欲の向上に繋げる。

④ 家庭・地域との連携による支援体制の充実

- ・三者面談や進路保護者説明会を通じて、生徒・保護者と情報を共有しながら、進路実現を支える体制を整える。
- ・地域の人材や企業との連携を深め、実社会とつながる学びの場を確保する。

(5) 個別の教育的ニーズに応じた支援体制の充実

すべての子供達が安心して学び、自分らしく成長できる学校を目指し、個々の教育的ニーズに応じた支援を行い、誰もが学びに参加できる学校づくりを推進する。

① 個別の教育的ニーズに応じた支援体制の整備

・支援が必要な生徒に対して、教育相談の提案、指導計画の作成、合理的配慮の提供等を検討し、学習・生活の両面からきめ細かな支援を行う。

② 教職員の専門性向上と連携強化

・特別支援教育に関する校内研修を実施し、教職員の理解と対応力を高める。

・特別支援教育コーディネーターを中心に、学年・教科・養護教諭・スクールカウンセラー・専門員・介助員・支援員等との連携を強化する。

③ 保護者・関係機関との協働

・保護者との丁寧な情報共有と相談を通じて、家庭と連携した支援を行う。

・教育委員会や福祉・医療機関など、外部機関との連携を図り、支援の幅と質を高める。

④ 共に学び合う環境づくり

・特別支援教室や特別支援学級の運営を通じて、個別の学びを保障するとともに、通常の学級との交流を促進し、互いを認め合う風土を育てる。

(6) 教員の指導力・資質向上を目指す校内研修の充実

生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出す教育を実現するために、教員自身が学び続け、指導力と教育的資質を高める校内研修を推進する。

① 教員の質を高める実践的な研修の推進

・授業力向上を目的とした校内研究や公開授業を通じて、指導法の工夫・改善を図る。

・ICT機器の活用や探究的な学び、個別最適化された指導など、現代の教育課題に対応した研修を計画的に実施する。

② 生徒理解と支援力の向上

・生徒の発達段階や多様な背景に応じた支援の在り方について、特別支援教育・生徒指導・キャリア教育などの視点から学びを深める。

・教職員間の情報共有と連携を促進し、チームとして生徒を支える体制づくりを強化する。

(7) 安全管理と施設の環境整備の推進

生徒の安全を最優先に、予測される様々なリスクに対応できるよう、組織的な危機管理を構築し、安全教育を推進する。また、生徒・教職員・地域が一体となって「安全で安心な学びの場」を築き、教育の質を支える環境づくりを進めていく。

① 安全・安心な学校環境の確保

・防災・防犯体制の見直しと強化を図り、月に一度の避難訓練及び安全点検を実施する。

・定期点検を行い、校内の危険箇所の発見と改善に努め、事故やけがの未然防止を徹底する。

② 快適で機能的な教育環境の整備

・ICT機器や学習備品の整備・更新を進め、現代の学びに対応した教育環境を整える。

・校舎・校庭・体育施設の美化と利便性を高め、すべての生徒が快適にできる空間を確保する。

③ 地域・保護者との連携による安全意識の醸成

・災害時に備えた引き渡し訓練を年に一度実施する。

(8) 学校の働き方改革の推進

教職員の心身の健康保持やライフ・ワーク・バランスの取れた生活を実現するとともに、教職員が子どもと向き合う時間を十分に確保し、学校教育の質の向上を図る。

① 出退勤タブレットを活用した教員の在校時間の管理

- ・教員の時間外在校時間を1カ月について45時間、1年について360時間を目指す。
- ② 「昭島市中学校に係る部活動の方針」に基づいた、負担軽減を図る。
 - ・週当たり2日以上 of 休業日を設け、平日は2時間程度、週休日及び長期休業中は3時間程度とする。
- ③ ライフ・ワーク・バランスの実現に向けた環境整備の推進
 - ・月1回以上の定時退勤及び、長期休業中の最低5日以上 of 年次有給休暇の取得を目指す。